


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成30年 2月15日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第7号	質問議員	8番	瀬戸 恵津子	
件名	鳥獣被害対策				
要 旨					
<p>鳥獣被害は人口減少や耕作者の高齢化により放任農園が増える事が、1つの要因になっています。</p> <p>農家自身が地域と共に町、鳥獣被害対策実施隊、JA、県と広域的な支援を受け取り組んでいます。国の計画では、平成35年までにシカ、イノシシ、サル等の有害鳥獣の半減を目指し、獲り続けることが、農地の荒廃の回復となるといわれています。</p> <p>農業を希望する移住者、山北町の自然を愛して定住を決める方々を増やすことは、人口ビジョンや総合戦略でも推進していますが推進状況はどうでしょうか。</p> <p>12月定例議会で同僚議員が、共和、清水、三保、高松地区だけでなく、山北地区の丸山、浅間山へのシカ、イノシシの出没がヤマビルやマダニの被害を拡大することになるので、そうならないための策を訴えました。</p> <p>農業振興はもとより観光立町として多くの人々を呼び込むためにも、鳥獣被害対策は、喫緊の課題です。</p> <p>新年度の予算の概要を伺いました。その中の鳥獣被害対策についてですが、県は平成29年度より「かながわ鳥獣被害対策支援センター」を設置し、鳥獣被害対策を1歩も2歩も進めています。これを積極的に活用し町の現況を訴えさらなる対策をとるべきです。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 平成28年度に川西平山地区が支援を受けたが、30年度に他の地域を重点地区として支援を要望されたか。(2) 山から里地へ侵入を防止する防護柵の設置や延長はどこ地区か。(3) 1頭につき3000円の捕獲奨励金の見直しはあるか。(4) 長野県では埋めるか、焼却(キロ250円)しかないシカ等の処分方法を変えて、できるだけ活用し、ペットフードにしたりして山を汚さないという方向性だが、当町の考えは。(5) ジビエカーの導入は処理施設がないと難しいと聞かすが、小規模な処理施設の設置を考えてはどうか。(6) 未病対策としてもジビエ肉は、鉄分、カルシウムが豊富で、脂質が少なく特産品とし					

て活用すべきだが考え方は。

以上伺います